



3月号
2025 No.21



SPECIAL REPORT
先端医療を
西尾市民に
急性期医療特集

CONTENTS

- 1 泌尿器科レーザー治療機器導入
- 2 Care 手術支援のおはなし
- 3 地域医療を支える新しい力
- 4 地域医療の豆知識
- 5 NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

当院では新たに国産の手術支援ロボットを導入し、この秋から泌尿器科などにおいて手術支援ロボットを用いた低侵襲の手術を行っていく計画です。このように当院が先端医療に力を注ぐのは、どうしてか。今回の特集では、私たちの目指す急性期医療や市民病院の在り方について考えてみました。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

先端医療を 西尾市民に

急性期医療特集

賢い選択に基づいて 手術支援ロボットなど先進技術を導入

CHAPTER 01

国産の手術支援ロボットを 導入し、訓練を重ねていく

西尾市民病院では2025年3月、国産の手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を導入する。hinotoriは、手術器具や内視鏡を取り付けた4本のアームを備え、術者の微細な動きを実現する装置。医師は患者のベッドサイドから離れたコックピットで、内視鏡の画像を見ながらアームを操作して手術を行う。「複数の機種候補から、性能や操作性、国産の良さなどを総合的に判断して、hinotoriを選びました」と語るのは、院長の櫛田政隆である。

近年、多くの病院で導入が進められている手術支援ロボット。その主なメリットは大きく分けて二つある。一つは、患者への負担が少ない低侵襲性。体に数力所の小さな穴を開けて手術を行うため、傷口が小さく、術後の痛みも少なく、早期の回復・退院が見込める。もう一つは、医師がスピーディに技術を習得できるところだ。専門的なトレーニングを積むことで、若手医師でもベテランの医師と同等のレベルで、高度な手術を安全に行うことができる。同院においても、大学病院のトレーニング施設に医師を派遣し、手技の練習を開始。同時に手術室スタッフの訓練も始めている。「十分なトレーニングを終えた後、学会認定の手術指導医の下で症例を

重ねて施設基準を獲得し、2025年の秋頃までには保険診療でロボット支援手術を行える体制を整える計画です」と、櫛田は話す。診療の領域として、初めに泌尿器科に照準を定め、前立腺がん、腎がん、膀胱がんに対するロボット支援手術の実績を蓄積。続いて、外科領域において大腸がんに対する結腸切除術に対するロボット支援手術の実績を積んでいく計画だ。「当院が手術支援ロボットを導入することによって、遠方の病院まで足を運ばなくても、ここ西尾市で泌尿器、大腸の最先端医療、体に負担の少ない治療を受けられるようになります。市民の皆さんにとって大きな恩恵になると思いますし、安全第一で実績を重ねていきたいと思っています」（櫛田）。

COLUMN

●医学部を卒業して医師国家試験に合格した医師は、研修先の病院を選んで2年以上の臨床研修を受ける。その際、研修医に選ばれる病院は、やはり優秀な指導医や高度な医療設備の整った施設だろう。

●西尾市民病院が急性期医療の充実に力を注ぐ理由の一つも、そうした研修医の期待にできる限り応えるためである。医師や患者を引き寄せる魅力的な拠点病院（マグネット・ホスピタル）を目指して、同院の挑戦は続く。



Medicaroid Corporation Copyright © Medicaroid Corpora

CHAPTER 02

先端医療機器を備え、 医師を確保していく

同院ではここ数年、増える高齢患者を支えるために、退院後の生活復帰を支援する地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションの運営に力を注いできた。在宅医療支援に注力する同院が、急性期医療の最先端である手術支援ロボットの活用に取り出したのはどうしてだろうか。「やはり近隣の基幹病院に頼るだけでなく、当院においても高度な急性期医療を提供できる体制をしっかりと確保し、地域医療に貢献したいという思いがあります。たとえば、三次救急など高度医療を担う基幹病院では手術の順番待ちに時間がかかる場合でも、当院であればそれほど待たせすることはないでしょう。患者さんにとって、地元の病院で高度な医療が受けられるメリットは計り知れないと思います」と、櫛宜田は話し、次のように続けた。「もう一つの狙いは、若手医師の獲得です。これまで何度もお話ししてき

たように、当院は長年、慢性的な医師不足に苦しんでいます。手術支援ロボットを導入することで、高度な急性期から在宅医療支援までトータルに学べる魅力を提供し、最新医療のスキル習得を目指す若手医師の確保につなげていく計画です」。

今後も同院では、急性期医療の充実を目指し、地域に必要な医療設備を順次、整えていく計画がある。その一つが、レーザー治療。腎盂・尿管がんの治療で、腎臓を温存できるレーザー内視鏡治療が注目されているが、同院では近々、それに用いる最新のレーザー装置を導入する。さらに2025年度は検査機器を新しい機種に更新する計画も控えている。「当地域に必要な医療設備は何かということをしっかりと検討して、賢い選択をしていきたいですね。医師の確保に努めつつ、高度な治療を必要とする急な病気にも、手厚いケアを必要とする在宅療養にも、その両面に対応できる市民病院として、市民の皆さんを支えていきたいと思っています」。櫛宜田は力強い口調でそう締めくくった。

BACK STAGE

基幹病院に準じる 医療機関の重要性

●地域にはそれぞれ高度で専門的な医療を担う基幹病院があるが、急性期医療をそれらの施設だけに頼るのはリスクが大きい。たとえば、災害など予期せぬ事態で基幹病院の医療が停止すれば、たちまち地域医療は危機に陥る。

●そうならないように、西尾市民病院のように基幹病院に準じる医療機関がしっかりと医療の高度化を追求し、地域で必要な急性期医療を提供できる体制を構築することが重要ではないだろうか。





ご期待
ください!



2025年4月、泌尿器科に新しいレーザー治療機器を導入 診療体制もより充実します

患者さんに負担の少ない レーザー治療を導入します

2025年4月、西尾市民病院の泌尿器科では、体への負担が少ない「ハイブリッドツリウムYAGレーザー(RevoLix HTL™)」を導入します。このレーザーは、尿路結石や前立腺肥大症の治療に役立ち、患者さんの体に優しい治療が可能です。

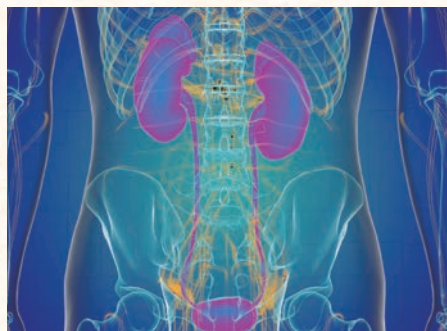
このレーザーの特長は、2種類のレーザーを組み合わせて、症状や患者さんの状態に合わせた治療ができる点です。また、結石を砕く際には、従来のレーザーよりも石が動きにくく、効率的に細かく砕くことができます。これにより、手術時間が短縮され、回復が早まることが期待されます。さらに、米国食品医薬品局(FDA)の承認を受けており、安全性と治療効果が確認されています。

体への負担を軽減し 日常生活への復帰もスムーズ

RevoLix HTL™を用いたレーザー治療の大きな特長は、入院期間が短く、回復が早い点です。従来の手術では数日間の入院が必要でしたが、このレーザーを使用すると、多くの患者さんがより短期間で退院できることが報告されています。これは、レーザーが周囲の組織を傷つけにくく、体への負担が少ないためです。また、術後の痛みや出血が少なく、日常生活への復帰もス

ムーズです。一般的には、治療後数日で通常の活動を再開できるため、仕事や家庭の都合で長期間入院できない方にとって、大きなメリットとなります。

さらに、このレーザーには止血を助ける働きがあり、手術後の合併症のリスクを抑えることができます。治療を受けた多くの患者さんが「思っていたよりも楽だった」と感じているとの報告もあります。これからも、患者さんが安心して医療を受けられるよう、治療環境の向上に努めてまいります。



画像提供:PIXTA

Column

常勤医師2名が新たに赴任。泌尿器科の診療体制が充実します



画像提供:
タカイ医科工業株式会社

当院の泌尿器科は、これまで非常勤医師4名で外来診療を中心に行ってきました。2025年4月からは常勤医師2名が新たに赴任し、より充実した診療体制となります。

これにより、今回紹介したレーザー治療に加えて、外科的手術にも対応できるようになり、より幅広い治療が可能になります。また、将来的には泌尿器科分野でのロボット支援手術の導入も計画しており、より高度な医療の提供を目指してまいります。泌尿器科の症状でお悩みの方は、ぜひお気軽にご相談ください。

※泌尿器科の診療体制については、2025年4月以降、ホームページでご紹介します。

ケア 手術支援 のおはなし

テーマ

手術室看護

しっかりと
サポート!

術前・術中・術後を通じて、
患者さんの安心と安全を
確かな支えで守ります



「器械出し」と「外回り」、 二つの役割があります

手術室看護師は、周術期（術前・術中・術後）を通じて患者さんに寄り添い、手術が円滑に進むよう手術室内外でサポートします。具体的には、〈器械出し〉と〈外回り〉の二つの役割を担います。

器械出しは、執刀医を直接サポートする看護師です。手術方法や執刀医ごとの特徴を理解し、必要な器材を準備した上で、執刀医への手渡し・受け取りを行います。一方、外回りは、手術の円滑な進行を支える役割があります。看護計画の立案・実施・評価、術中の経過記録、患者さんの体位固定・交換、全身状態の観察、麻酔医の介助に加え、医師や臨床工学技士との連携、外部との調整も担います。

術前訪問と術後訪問で、 しっかりと患者さんを支援

手術室看護師には、手術室外での重要な役割として、術前訪問と術後訪問があります。

術前訪問では、電子カルテの患者情報を把握した上で、麻酔時の体位、関節の可動域、痺れや皮膚損傷の有無を確認し、ご本人と直接対話しながら手術に必要な情報を収集します。また、

手術に対する不安を和らげるためのサポートも丁寧に行います。

術後訪問では、褥瘡（じよくそう：床ずれ）を含め、術後の合併症の有無を確認し、必要に応じて病棟と共有し、継続看護を行っています。さらに、個々の患者さんのケアだけでなく、手術室全体としても、手術体位や手術時間、合併症のデータを蓄積し、今後の手術室看護の向上に役立てています。



Message

私たちが支援します



外来看護科手術室
看護師長
上野 日出見

高度な専門性と、的確な対応力が求められます

手術室看護師には、手術中の感染を防ぐための知識と技術、手術室内の清潔を維持するための操作スキル、そして手術中の状況を的確に判断し、適切に対応する能力が求められます。また、患者さんへの直接的な看護業務以外に、手術に必要な物品の管理が重要な役割の一つです。手術によっては、特定の器材がなければ実施できないものもあり、期限切れの防止や欠品管理、医師が希望する器材への変更対応、さらには器械の洗浄・滅菌など、すべて高度な専門性を要します。今後は、ロボット支援手術などの新たな機器の導入も進むため、こうした分野の知識向上にも力を注いでいきたいと考えています。



地域医療を支える

新しい力

チカラ



対談企画

初期臨床研修医

看護師

私たちの
仲間をご紹介

大切なのは、患者さんと丁寧に向き合うこと

患者さんとの関わりで大切にしていること、
また、感じたことを教えてください

松井 私は、研修医として救急外来で勤務しており、多くの患者さんの初診を担当しています。関わる時間は短いことが多いのですが、後日、院内で患者さんから「松井先生、あの時はおかげで病気が見つかりました。本当にありがとうございました」と声を掛けられたことがありました。

石川 それは嬉しいですね！

松井 本当に嬉しく、感動しました。患者さん一人一人と丁寧に関わることの大切さを改めて感じています。石川さんはどうですか？

石川 私は看護師として患者さんと最も近い距離で接しています。常に話しやすい存在でありたいと思い、忙しい中でも患者さんの治療や退院、最期にどのように過ごしたいか、家族への思いなどをしっかり聞き取り、主治医に伝えることを大切にしています。

松井 患者さんの思いを聞き取ることの重要性は、私たち医師にとっても同じですね。

これからの歩みや、自分の将来像について
どのように考えていますか？

石川 松井先生は4月から後輩ができるんですよね？

松井 はい。先輩方にはたくさん支えていただき、頼もしく感じました。私もそんな先輩になれるよう努力したいと思います。自分が学んだことを後輩に伝え、役立ててもらいたいですね。

石川 看護師の場合、1年目は専任の指導者がついて、教育やサポートが手厚いですね。2年目になってから、その手厚い指導の重要性に気付き、指導する側としての責任感も強く感じるようになりました。ところで、松井先生は将来、どの専門領域を目指していますか？

松井 私は外科を目指しています。手技を行うことが好きで、手術による治療効果が目に見えてわかるからです。

石川 私は一つの方向として、救急看護認定看護師を思っています。その資格を持つ先輩がいて、非常に頼もしいのです！

松井 理想的な先輩が身近にいるのは素晴らしいことですね。お互いに頑張りましょう！

初期臨床研修医(1年目)

松井祐次郎(まつい ゆうじろう)

大阪府高槻市出身。研修医が少人数なので、じっくり学べる環境が好きですね。

新人看護師(2年目)

石川緋梨(いしかわ あかり)

愛知県西尾市出身。看護師の母親の姿を見て、小さい頃から看護師に憧れていました。

※入職年数は取材当時のものです。



こんな言葉知っていますか？ 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 医療事務作業 補助者

今回は
〈医療事務作業補助者〉に
ついて学びましょう



医師と直接コミュニケーションを取り 医師の事務作業をサポート 診療活動を陰で支えるエキスパートです

医療現場には多様な職種があり、その中で医師の事務作業を支援するのが〈医師事務作業補助者〉です。医療事務が受付業務を中心とするのに対し、医師事務作業補助者は診察室で医師と直接連携し、文書作成などを担当するため、より現場に密着した職種といえます。

この業務は、2000年頃の勤務医の過重労働を軽減する目的で導入され、2008年に正式な職種として確立されました。現在では、診断書や紹介状などの文書作成、電子カルテの入力業務などを担当しています。まさに、医療機関の診療活動を陰で支える重要な存在です。



西尾市民病院では

診療全般の専門知識習得に力を注ぎ、患者さんと医師を側面から支えます

当院には、ベテランから新人まで約20名の医師事務作業補助者が在籍しています。私たちの役割は、医師の事務作業を支援し、診療に関わる文書を正確かつ迅速に作成することです。例えば、身体障害者手帳や指定難病の申請が通らないといった事態を防ぐため、専門用語や診療全般の知識を徹底的に学び、精度の高い文書作成を心掛けています。

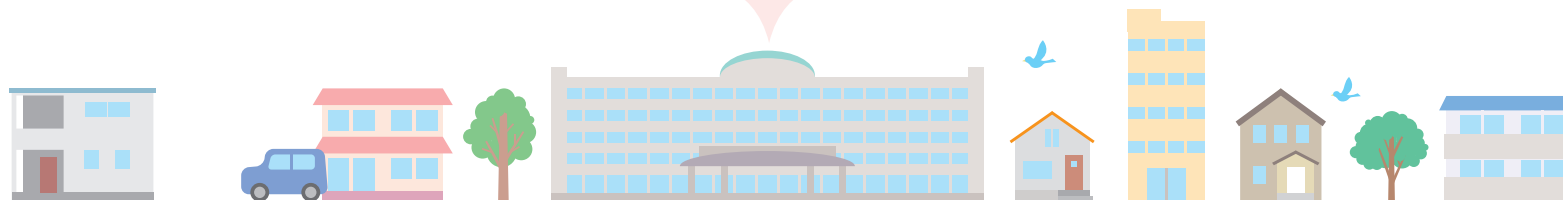
最終的な確認は医師が行いますが、その時間を短縮できるよう、事前に調べた上で適切なタイミングで質問し、医師が本来の診療業務に集中できるよう努めています。一人一人が責任を持ち、医療の現場を支えているという意識の下、日々努力を重ねています。

また、私自身が大切にしているのは、患者さんとの信

頼関係の構築です。医師には直接相談しづらい薬の服用状況や生活上の困り事をお伺いし、それを診療に生かせるよう医師に伝える役割も担っています。単に文書作成にとどまらず、患者さんの立場に寄り添い、診療の質を高めることが私たちの使命です。

現在では、患者さんも私たちを信頼し、「話を聞いてもらえる」「医師にきちんと伝えてくれる」と感じてくださるようになり、より良い関係が築かれつつあります。

医事課 医師事務作業補助者
林 尚美



糖尿病チームがInstagramを開設！チームの活動や役立つ情報を発信中

2025年1月6日、西尾市民病院の糖尿病チームがInstagramを開設しました。日々の活動や糖尿病に関する情報を、より多くの方にわかりやすく発信することを目的としています。

糖尿病チームは、入院患者さんの血糖管理をサポートする〈糖尿病ラウンド〉をはじめ、〈外来糖尿病教室〉や院内勉強会などを通じて、治療と予防の充実を図っています。糖尿病ラウンドでは、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士が連携し、血糖コントロールにとどまらず、退院後の生活を見据えた最適な治療を提供。また、毎月開催の〈外来糖尿病教室〉では、医師や看護師による講演に加え、隔月で理学療法士や管理栄養士による運動や栄養のミニ講座も実施し、患者さんの療養生活を多角的に支援しています。

現場の医療者だからこそ伝えられる情報を発信する糖尿病チームのInstagram。ぜひフォローしてご覧ください！



\Follow Me/

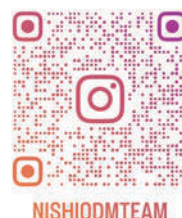


Instagram

西尾市民病院
糖尿病チーム

フォローはこちらから▶

@nishiodmteam



NISHIODMTEAM

地域医療デジタル掲示板 広告募集

企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

西尾市民病院、市役所設置の
大型モニターで市民の皆さんに
情報をお届けできます。

※掲載事項および内容には、審査がございます。



お問い合わせ・
お申し込みは
こちらから



合同会社プロジェクトリンク事務局
info@project-linked.com

看護師募集中！

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先 西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報WEBマガジン



こちらから



西尾市民病院からの最新TOPICS
や検査・治療・ケアに関する情報などをお届けし
ます。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウント
を開設しました。QRコードから「友だち追加」を
お願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171 (代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



3 2025
月号 No.21

発行責任者／院長 欄宜田 政隆

発行／西尾市民病院

編集協力・記事提供／プロジェクトリンク事務局

発行日／2025年3月7日